

## 研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-750	14-100	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
<b>題名 (原題/訳)</b>		
Alcohol consumption and risk of heart failure: the Atherosclerosis Risk in Communities Study. アルコール摂取と心不全のリスク : ARIC 研究より		
<b>執筆者</b>		
Gonçalves A, Claggett B, Jhund PS, Rosamond W, Deswal A, Aguilar D, Shah AM, Cheng S, Solomon SD.		
<b>掲載誌</b>		
Eur Heart J. 2015 Apr 14;36(15):939-45. doi: 10.1093/eurheartj/ehu514.		
<b>キーワード</b>		<b>PMID</b>
アルコール摂取、心不全、男性、女性、一般住民		25602025
<b>要 旨</b>		
<b>目的：</b> アルコール摂取は心臓にとって毒であり、大量飲酒は心不全をもたらすことは知られている。しかし、適正飲酒と心不全のリスクについては、男女ともにまだ明らかにされていないため検討した。		
<b>方法：</b> ARIC 研究の参加者のうち、ベースライン時 (1987-89) に心不全のなかった 14,629 人(平均年齢 54 歳、女性割合 55%)を対象とし 24 年の追跡調査を実施した。自己申告のアルコール摂取量は、1 杯がエタノール 14g と定義して、平均 8.9±0.3 年の週当たりの飲酒量(杯)を評価した。Cox 比例ハザードモデルを用い、アルコール摂取量と心不全発症リスクについて性別を調整して検討した。		
<b>結果：</b> 対象者の飲酒状況は、非飲酒 42%、過去飲酒 19%、現在飲酒 39% (週 7 杯未満 25%、週 7~14 杯未満 8%、週 14~21 杯未満 3%、週 21 杯以上 3%) であった。24 年の追跡期間中、男性 1,271 人、女性 1,237 人に心不全の発症を認めた。男性では、非飲酒者に比して週 7 杯未満の飲酒者では、心不全発症リスクが有意に 20%低かったが、女性では低い傾向を認めたものの、統計的に有意ではなかった。週 7 杯以上の飲酒群では、男女ともに非飲酒者と心不全発症リスクに差を認めなかった。		
<b>結論：</b> 週 7 杯までのアルコール摂取は早期中年層の男性において将来の心不全発症リスクの低下に関連していた。女性では、その傾向は男性に比べて弱かった。本知見は、大量飲酒は危険だが、早期中年層では適正飲酒が心不全リスク低下に関連していることを示唆した。		